



通年観光計画 市長公約と乖離は？



「こんどう 彰治（市民クラブ）」

Q 鉄道博物館建設の見送りは、通年観光計画との乖離が生じるが、どのように考えているか。

A 当初の概算事業費を約4億6,000万円と見込んだが、その後のニーズ調査に基づく施設整備では約21億6,000万円に膨らんだ。安定的な運営には、年間約4万5,000人の来館者や、物販・飲食などで毎月約1000万円以上の売り上げが必要であることを把握したため、整備を見送ることが適当と判断した。

Q 通年観光計画そのものを変更せざるを得ないのではないか。

A 地域の鉄道遺産を面的に捉える手法で取組を推進するため、計画変更は考えていない。

今夏の渇水における危機管理は

Q 城山浄水場への配水管の破損により、節水を余儀なくされたが、節水要請に唐突感を感じる。危機管理についてどのように考えているか。

A 情報発信、伝達の在り方は改善の余地があると認識しており、対応について今後検証する。

えちご・くびき野100kmマラソン終了か

Q 令和8年度で終了するとしたが、再考する考えはないか。

A 実行委員会の決定を尊重して、令和8年度に開催する大会を最後としたい。



市政混乱！停滞には 市政の立て直しが必定



宮越 馨（無所属）

Q 中川市政の4年間は度重なる不適切発言などに見られるように、選挙には勝ったが、適切な市政運営はできなかったものと断言する。こうした評価は上越市史に不名誉な記録として残り、市民の名誉と誇りを傷つけた。相手のこと考えず発言する姿は幼稚すぎる。失った行政の信頼を回復するには、市長の辞職しかない。

A 私が目指すまちづくりは、一步一步前に進めることができしており、市政運営に対する信頼の回復につながるものと考えている。

市長の政治姿勢に問題はないか

Q 中川市長の行政統治能力の欠如は驚くばかりだ。特に能登半島地震での対応、渇水対策における危機管理能力が全く感じられない。中川市長には限界を感じる。議会からの2度にわたる辞職勧告は直ちに受け入れるべきだ。

A 残された任期において、市長としての職責を全うしたい。

Q 今の財政状況は大変厳しい。監査委員も指摘するように、そう遠くない時期に財政破綻もあり得る。火力発電所からの巨額な税収が無かったら財政破綻している。責任は重いがどうか。

A 今以上の厳しい財政運営が求められている。歳入の確保と歳出の適正化により、財政調整基金に過度に頼らない収支構造への転換に努める。



身寄りのない高齢者の 安心を支えるために



高橋 浩輔（みらい）

Q 当市における高齢者単身世帯、高齢者のみ世帯の状況と今後の推移の予測はどうか。

A 令和7年4月1日現在、65歳以上の単身高齢者世帯は1万1,973世帯、高齢者のみ世帯は1万770世帯で、今後も増加傾向で推移すると予測している。

Q 身寄りのない、身近に頼れる人がいない高齢者等が生活していく上での困難や課題をどう捉え、どのような手立てを講じているか。

A 課題は多岐にわたり、市や包括支援センターに多くの相談が寄せられている。令和6年度に市が策定した「上越市における身寄りのない人への支援に関するガイドライン」などに基づき、本人の実情に応じた支援を行っている。

Q 横須賀市では、身寄りのない高齢者等が自分の意思を自ら伝えることができない状態になった場合に備えて必要な情報を市が預かり、万一の時に定められた対象に伝達する「終活情報登録事業」を行っている。また、三世代同居・近居を支援する自治体が増えてきており、高齢者を身寄りのない状態にしないという観点から、当市でも取組を進めるべきと考えるがどうか。

A 横須賀市等の先進事例についてはよく研究し、必要なものは取り組んでいきたい。三世代同居・近居については、行政として積極的に促すことは慎重に考える必要がある。